

DERWENT-ACC-NO: 1990-332323

DERWENT-WEEK: 199926

COPYRIGHT 1999 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Extract of hypericaceae plant - for external prepn. for
dermal use e.g. skin roughness or acne

PATENT-ASSIGNEE: BEIJIN RIYUENRIYON FUSHU[BEIJN] , SHISEIDO CO
LTD[SHIS]

PRIORITY-DATA: 1989JP-0058040 (March 13, 1989)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO	PUB-DATE	LANGUAGE	PAGES	MAIN-IPC
JP 02240009 A	September 25, 1990	N/A	004	N/A
JP 2894715 B2	May 24, 1999	N/A	007	A61K 007/00

APPLICATION-DATA:

PUB-NO	APPL-DESCRIPTOR	APPL-NO	APPL-DATE
JP 02240009A	N/A	1989JP-0058040	March 13, 1989
JP 2894715B2	N/A	1989JP-0058040	March 13, 1989
JP 2894715B2	Previous Publ.	JP 2240009	N/A

INT-CL (IPC): A61K007/00, A61K035/78

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 02240009A

BASIC-ABSTRACT:

External prepn. for dermal use which contains at least one kind of crude drug or its extract of Hypericaceae plant, Paeoniaceae plant, or paeoniaceae plant.

USE/ADVANTAGE - External prepn. for dermal use is effective for prophylaxis and treatment of skin roughness or acne. Pref. combining amt. of these crude drugs or extracts in prepn. are 0.01-5 wt.% as dry wt. Pref. using amounts per 100 cm² of human skin are pref. 0.00002-0.01 g/day as dry wt. of crude drugs or extracts. In an example face lotion; H₂O part, sorbitol (70%) 3.0 g, glycerin

5.0 g, allantoin 0.1 g, H₂O 70.8 g. Alcohol part, berberine 0.02 g, extract of forsythia fruit (dry matter) 0.1 g, polyoxyethylene hardened castor oil derivs. 0.5 g, etOH 20.0 g, perfume adequate. Each components of H₂O part was mixed and dissolved. To this, alcohol part soln. was added under stirring to obtain homogenous soln..

CHOSEN-DRAWING: Dwg.0/0

TITLE-TERMS: EXTRACT PLANT EXTERNAL PREPARATION DERMAL SKIN
ROUGH ACNE

DERWENT-CLASS: B04 D21

CPI-CODES: B04-A07F2; B12-A07; D08-B09A;

CHEMICAL-CODES:

Chemical Indexing M1 *01*

Fragmentation Code

M423 M781 M903 P943 V400 V406

Registry Numbers

1327U 0502U

SECONDARY-ACC-NO:

CPI Secondary Accession Numbers: C1990-144306

⑫ 公開特許公報(A) 平2-240009

⑤ Int.Cl.⁵

A 61 K 7/00

35/78

識別記号

Y
K
W

庁内整理番号

7306-4C
7306-4C
8413-4C※

④ 公開 平成2年(1990)9月25日

審査請求 未請求 請求項の数 4 (全9頁)

⑭ 発明の名称 皮膚外用剤

⑰ 特 願 平1-58040

⑱ 出 願 平1(1989)3月13日

⑲ 発 明 者 チョン ジードン 中華人民共和国, ベイジンシ チョンウエンチュウ ドン
スー クアイユー ナンジェ 32ハオ ベイジン リーヨ
ン ファシュエ イエンジュウスオ⑲ 出 願 人 ベイジン リーユエン 中華人民共和国, ベイジンシ チョンウエンチュウ シー
リーヨン ファシュ
エ グーフエン ヨウ
シェン ゴンスー

⑲ 出 願 人 株式会社資生堂 東京都中央区銀座7丁目5番5号

⑲ 代 理 人 弁理士 青木 朗 外4名

最終頁に続く

明 細 書

1. 発明の名称

皮膚外用剤

2. 特許請求の範囲

1. オトギリソウ科植物の生薬またはその抽出物の一種以上を含有することを特徴とする皮膚外用剤。

2. オトギリソウ科植物の生薬またはその抽出物の一種以上とボタン科植物の生薬またはその抽出物の一種以上とを含有することを特徴とする皮膚外用剤。

3. モクセイ科植物の生薬またはその抽出物の一種以上を含有することを特徴とする皮膚外用剤。

4. モクセイ科植物の生薬またはその抽出物の一種以上とボタン科植物の生薬またはその抽出物の一種以上とを含有することを特徴とする皮膚外用剤。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は、新規にして、かつ安全で有効なる生

薬含有皮膚外用剤に関するもので、特にニキビまたは肌荒れの予防、治療または処置に有効に働く。

(従来技術)

ニキビは主として思春期に発現する皮膚疾患で病名を尋常性座瘡といい、臨床的には「毛嚢脂腺系を中心に毛孔に起こる慢性的炎症性変化」と定義されている。

ニキビの病因は現在まだ明らかではなく、種々の要因が複雑にからみあっている皮膚疾患であるが、一般には、皮脂分泌過剰、毛嚢角化または毛嚢内細菌が重要な役割を果たしているものと考えられている。

現在、ニキビ治療効果のある外用剤は少なく、また効果の面に於いても十分とは言いがたく、治療面でも満足できる効果を発揮するものは得られていない。

(発明が解決しようとする課題)

本発明者らは、安全性に優れた天然由来の物質

の中から、特に肌荒れまたはニキビの予防、治療または処置に有効な化合物を研究していたところ、モクセイ科植物の生薬またはその抽出物あるいはオトギリソウ科植物の生薬またはその抽出物が有効であることを見い出した。更に、本発明者らは、前記のオトギリソウ科植物の生薬またはその抽出物あるいはモクセイ科植物の生薬またはその抽出物と共にボタン科植物の生薬またはその抽出物を併用すると著しい相剋効果があることも見い出した。

〔課題を解決するための手段〕

従って、本発明は、

オトギリソウ科植物の生薬またはその抽出物の一種以上を含有することを特徴とする皮膚外用剤に関する。

更に本発明は、モクセイ科植物の生薬またはその抽出物の一種以上を含有することを特徴とする皮膚外用剤に関する。

更に本発明は、オトギリソウ科植物の生薬また

はその抽出物の一種以上とボタン科植物の生薬またはその抽出物の一種以上とを含有することを特徴とする皮膚外用剤に関する。

更に本発明は、モクセイ科植物の生薬またはその抽出物の一種以上とボタン科植物の生薬またはその抽出物の一種以上とを含有することを特徴とする皮膚外用剤に関する。

かかる皮膚外用剤は、特に肌荒れまたはニキビの予防、治療または処置に有効である。

以下、本発明の構成について詳述する。

本発明においては、モクセイ科植物、オトギリソウ科植物および場合によりボタン科植物の生薬またはその抽出物を用いる。モクセイ科(Oleaceae)植物としては、レンギョウ(*Forsythia suspensa* Vahl.)、サトリネコ(*Fraxinus japonica* Blume)、アオダモ(*Fraxinus lanuginosa* Koidzumi)、オウバイ(*Jasminum nudiflorum* Lindl.)、キンケイ(*Jasminum odora* TISSIMUN L.)、シオジ(*Fraxinus spaethiana* Lingelsheim.)、ヤダチモ(*Fraxinus mandshurica* Rupr.)、キンモクセイ(*Osmanthus*

fragrans Lour.)、ヒイラギ(*Osmanthus ilicifolius* Mouillefert)、ソケイ(*Jasminum officinale* L.)、ヤマトレンギョウ(*Forsythia japonica* Makino)、ハシドイ(*Syringa reticulata* Hara)、ライラック(*Syringa vulgaris* L.)、モクセイ(*Osmanthus asiaticus* Nakai)、ネズミモチ(*Ligustrum japonicum* Thunb.)、ミヤマイボタ(*Ligustrum tschonoskii* Decaisne)、ヒトツバタゴ(*Chionanthus retusus* Lindl.)、イボタノキ(*Ligustrum obtusifolium* Sieb.)またはオオバイボタ(*Ligustrum ovalifolium* Hassk.)を用いる。オトギリソウ科(Hypericaceae)植物としては、例えばキンシバイ(*Hypericum patulum* Thunb.)、ビョウヤナギ(*Hypericum chinense* L.)、トモエソウ(*Hypericum Ascyron* L.)、オトギリソウ(*Hypericum erectum* Thunb.)、コオトギリ(*Hypericum hakonense* Franch. et Sav.)、イワオトギリ(*Hypericum kantschaticum* Ledeb.)、エゾオトギリ(*Hypericum yezoense* Maxim.)、アゼオトギリ(*Hypericum oliganthum* Franch. et Sav.)、ヒメオトギリ(*Hypericum japonicum* Thunb.)ま

たはコケオトギリ(*Hypericum laxum* Koidz.)を用いる。ボタン科(Paeoniaceae)植物の例としてはボタン(*Paeonia suffruticosa*, Andr.)またはジャクヤク(*Paeonia lactiflora* Pall.)が挙げられる。

本発明では、前記植物の生薬、すなわち前記植物の全体または一部分(例えば全草、根、根茎、茎、根皮、葉、花)を簡単に加工処理(例えば、乾燥、切断、粉末化)したもの、またはその抽出物を用いる。

本発明で用いる生薬抽出物の製造方法としては、前記の生薬を溶媒、例えば、熱水やメタノール、エタノール等の低級アルコールあるいは含水低級アルコールあるいはプロピレングリコール、1,3-ブチレングリコール等の多価アルコールあるいは含水多価アルコール等の含水アルコール等で抽出して得ることができる。本発明の皮膚外用剤におけるモクセイ科植物あるいはオトギリソウ科植物の生薬またはその抽出物の配合量は、皮膚外用剤全量中、乾燥物として0.005~10重量%、

好ましくは0.01～5重量％である。0.005重量％未満であると、本発明が目的とする効果が十分に得られない。また、10重量％を越えると製剤上または皮膚刺激の上からも好ましくない。ボタン科植物の生薬またはその抽出物を併用する場合には、皮膚外用剤全量中、乾燥物として、0.005～10重量％、好ましくは0.01～5重量％の量で配合する。0.005重量％未満であると本発明が目的とする効果が十分に得られない。また、10重量％を越えると製剤上または皮膚刺激の上からも好ましくない。

本発明の皮膚外用剤は前記の必須成分の他に、必要に応じて、本発明の効果を損なわない範囲内で、化粧品、医薬部外品、医薬品等に一般に用いられる各種成分、水性成分、保湿剤、増粘剤、防腐剤、酸化防止剤、香料、色剤、薬剤等を配合することができる。また本発明の皮膚外用剤の剤型は任意であり、例えばクリーム、乳液、化粧水等の剤型をとることができる。本発明の皮膚外用剤は特にニキビ治療剤または肌荒れ治療剤として有

効である。本発明の皮膚外用剤は、ヒトの皮膚200cm²あたりに一般に有効成分である生薬またはその抽出物（乾燥重量）が0.00001～0.02g/day、好ましくは0.00002～0.01g/dayとなる量で適用する。

〔発明の効果〕

本発明による皮膚外用剤は肌荒れまたはニキビの予防、治療および処置に有効である。

〔実施例〕

実施例1：化粧水

水部

ソルビトール（70％）	3.0 g
グリセリン	5.0 g
アラントイン	0.1 g
水	70.8 g

アルコール部

ベルベリン	0.02 g
レンギョウ抽出物（乾燥物）	0.1 g

攪拌下に加えて均一な溶液として化粧水を得た。

実施例3：化粧水

水部

ソルビトール（70％）	3.0 g
グリセリン	5.0 g
アラントイン	0.1 g
水	70.8 g

アルコール部

ベルベリン	0.02 g
イワオトギリ抽出物（乾燥物）	0.05 g
ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油誘導体	0.5 g
エタノール	20.0 g
香料	適量

水部の各成分を混合溶解して調製した液に、アルコール部の各成分を混合溶解して調製した液を攪拌下に加えて均一な溶液として化粧水を得た。

実施例4：化粧水

水部

ソルビトール（70％）	3.0 g
グリセリン	5.0 g

ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油誘導体	0.5 g
エタノール	20.0 g
香料	適量

水部の各成分を混合溶解して調製した液に、アルコール部の各成分を混合溶解して調製した液を攪拌下に加えて均一な溶液として化粧水を得た。

実施例2：化粧水

水部

ソルビトール（70％）	3.0 g
グリセリン	5.0 g
アラントイン	0.1 g
水	70.8 g

アルコール部

ベルベリン	0.02 g
アゼオトギリ抽出物（乾燥物）	3.0 g
ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油誘導体	0.5 g
エタノール	20.0 g
香料	適量

水部の各成分を混合溶解して調製した液に、アルコール部の各成分を混合溶解して調製した液を

アラントイン	0.1 g
水	70.8 g
<u>アルコール部</u>	
ベルベリン	0.02 g
キンシバイ抽出物(乾燥物)	0.05 g
ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油誘導体	0.5 g
エタノール	20.0 g
香 料	適 量

水部の各成分を混合溶解して調製した液に、アルコール部の各成分を混合溶解して調製した液を攪拌下に加えて均一な溶液として化粧水を得た。

実施例5：化粧水

<u>水 部</u>	
ソルビトール(70%)	3.0 g
グリセリン	5.0 g
水	67.7 g
<u>アルコール部</u>	
レンギョウ抽出物(乾燥物)	3.0 g
ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油誘導体	0.5 g
エタノール	20.0 g

実施例7：化粧水

<u>水 部</u>	
ソルビトール(70%)	3.0 g
グリセリン	5.0 g
アラントイン	0.1 g
水	70.8 g
<u>アルコール部</u>	
ベルベリン	0.02 g
オトギリソウ抽出物(乾燥物)	3.0 g
ボタン抽出物(乾燥物)	0.5 g
ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油誘導体	0.5 g
エタノール	20.0 g
香 料	適 量

水部の各成分を混合溶解して調製した液に、アルコール部の各成分を混合溶解して調製した液を攪拌下に加えて均一な溶液として化粧水を得た。

実施例8：化粧水

<u>水 部</u>	
ソルビトール(70%)	3.0 g
グリセリン	5.0 g

香 料 適 量

水部の各成分を混合溶解して調製した液に、アルコール部の各成分を混合溶解して調製した液を攪拌下に加えて均一な溶液として化粧水を得た。

実施例6：化粧水

<u>水 部</u>	
ソルビトール(70%)	3.0 g
グリセリン	5.0 g
アラントイン	0.1 g
水	70.8 g

アルコール部

ベルベリン	0.02 g
オトギリソウ抽出物(乾燥物)	0.5 g
シャクヤク抽出物(乾燥物)	0.5 g
ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油誘導体	0.5 g
エタノール	20.0 g

香 料 適 量

水部の各成分を混合溶解して調製した液に、アルコール部の各成分を混合溶解して調製した液を攪拌下に加えて均一な溶液として化粧水を得た。

水	69.5 g
<u>アルコール部</u>	
シャクヤク抽出物(乾燥物)	1.0 g
オトギリソウ抽出物(乾燥物)	1.0 g
ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油誘導体	0.5 g
エタノール	20.0 g

香 料 適 量

水部の各成分を混合溶解して調製した液に、アルコール部の各成分を混合溶解して調製した液を攪拌下に加えて均一な溶液として化粧水を得た。

実施例9：化粧水

<u>水 部</u>	
ソルビトール(70%)	3.0 g
グリセリン	5.0 g
水	69.5 g

アルコール部

オトギリソウ抽出物(乾燥物)	1.5 g
ボタンビ抽出物(乾燥物)	0.5 g
ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油誘導体	0.5 g
エタノール	20.0 g

香 料 適 量

水部の各成分を混合溶解して調製した液に、アルコール部の各成分を混合溶解して調製した液を攪拌下に加えて均一な溶液として化粧水を得た。

実施例 10 : 化粧水水 部

ソルビトール (70%)	3.0 g
グリセリン	5.0 g
水	70.5 g

アルコール部

オトギリソウ抽出物 (乾燥物)	0.5 g
レンギョウ抽出物 (乾燥物)	0.5 g
ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油誘導体	0.5 g
エタノール	20.0 g

香 料 適 量

水部の各成分を混合溶解して調製した液に、アルコール部の各成分を混合溶解して調製した液を攪拌下に加えて均一な溶液として化粧水を得た。

実施例 11 : 化粧水水 部

ソルビトール (70%)	3.0 g
グリセリン	5.0 g
水	69.5 g

アルコール部

シャクヤク抽出物 (乾燥物)	0.7 g
レンギョウ抽出物 (乾燥物)	1.3 g
ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油誘導体	0.5 g
エタノール	20.0 g

香 料 適 量

水部の各成分を混合溶解して調製した液に、アルコール部の各成分を混合溶解して調製した液を攪拌下に加えて均一な溶液として化粧水を得た。

実施例 12 : 化粧水水 部

ソルビトール (70%)	3.0 g
グリセリン	5.0 g
水	69.5 g

アルコール部

シャクヤク抽出物 (乾燥物)	0.3 g
ボタンビ抽出物 (乾燥物)	1.0 g
オトギリソウ抽出物 (乾燥物)	0.7 g
ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油誘導体	0.5 g
エタノール	20.0 g

香 料 適 量

水部の各成分を混合溶解して調製した液に、アルコール部の各成分を混合溶解して調製した液を攪拌下に加えて均一な溶液として化粧水を得た。

実施例 13 : 化粧水水 部

ソルビトール (70%)	3.0 g
グリセリン	5.0 g
水	69.5 g

アルコール部

シャクヤク抽出物 (乾燥物)	1.0 g
ボタンビ抽出物 (乾燥物)	0.3 g
レンギョウ抽出物 (乾燥物)	0.7 g
ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油誘導体	0.5 g

エタノール	20.0 g
-------	--------

香 料 適 量

水部の各成分を混合溶解して調製した液に、アルコール部の各成分を混合溶解して調製した液を攪拌下に加えて均一な溶液として化粧水を得た。

実施例 14 : クリーム

ミツロウ	10.0 g
パラフィンワックス	6.0 g
ラノリン	3.0 g
イソプロピルミリステート	6.0 g
スクワラン	8.0 g
流動パラフィン	25.0 g
トモエソウ抽出物 (乾燥物)	0.2 g
イオウ	2.0 g
ポリオキシエチレンソルビタン	
モノステアレート	1.7 g
ソルビタンモノステアレート	4.2 g
防腐剤	適 量

前記の各成分を混合し、約75℃で加熱して溶解させて油相部を調製した。

プロピレングリコール	2.0 g
ホウ砂	0.7 g
精製水	残 余

これらの各成分からなる混合液に、約75℃に加熱した前記の油相部を攪拌しながら加え、冷却し、55℃で香料を適量加え、45℃まで攪拌をつづけ、放置してクリームを得た。

実施例15：クリーム

ミツロウ	10.0 g
パラフィンワックス	6.0 g
ラノリン	3.0 g
イソプロピルミリステート	6.0 g
スクワラン	8.0 g
流動パラフィン	25.0 g
レンジョウ抽出物（乾燥物）	0.2 g
イオウ	2.0 g
ポリオキシエチレンソルビタン	
モノステアレート	1.7 g
ソルビタンモノステアレート	4.2 g
防腐剤	適 量

ソルビタンモノステアレート	4.2 g
防腐剤	適 量

前記の各成分を混合し、約75℃で加熱して溶解させて油相部を調製した。

プロピレングリコール	2.0 g
ホウ砂	0.7 g
精製水	残 余

これらの各成分からなる混合液に、約75℃に加熱した前記の油相部を攪拌しながら加え、冷却し、55℃で香料を適量加え、45℃まで攪拌をつづけ、放置してクリームを得た。

実施例17：クリーム

ミツロウ	10.0 g
パラフィンワックス	6.0 g
ラノリン	3.0 g
イソプロピルミリステート	6.0 g
スクワラン	8.0 g
流動パラフィン	25.0 g
オトギリソウ抽出物（乾燥物）	0.3 g
ボタンビ抽出物（乾燥物）	0.2 g

前記の各成分を混合し、約75℃で加熱して溶解させて油相部を調製した。

プロピレングリコール	2.0 g
ホウ砂	0.7 g
精製水	残 余

これらの各成分からなる混合液に、約75℃に加熱した前記の油相部を攪拌しながら加え、冷却し、55℃で香料を適量加え、45℃まで攪拌をつづけ、放置してクリームを得た。

実施例16：クリーム

ミツロウ	10.0 g
パラフィンワックス	6.0 g
ラノリン	3.0 g
イソプロピルミリステート	6.0 g
スクワラン	8.0 g
流動パラフィン	25.0 g
オトギリソウ抽出物（乾燥物）	0.5 g
イオウ	2.0 g
ポリオキシエチレンソルビタン	
モノステアレート	1.7 g

イオウ	2.0 g
ポリオキシエチレンソルビタン	
モノステアレート	1.7 g
ソルビタンモノステアレート	4.2 g
防腐剤	適 量

前記の各成分を混合し、約75℃で加熱して溶解させて油相部を調製した。

プロピレングリコール	2.0 g
ホウ砂	0.7 g
精製水	残 余

これらの各成分からなる混合液に、約75℃に加熱した前記の油相部を攪拌しながら加え、冷却し、55℃で香料を適量加え、45℃まで攪拌をつづけ、放置してクリームを得た。

実施例18：クリーム

ミツロウ	10.0 g
パラフィンワックス	6.0 g
ラノリン	3.0 g
イソプロピルミリステート	6.0 g
スクワラン	8.0 g

流動パラフィン	25.0 g
オトギリソウ抽出物（乾燥物）	0.3 g
シャクヤク抽出物（乾燥物）	0.2 g
イオウ	2.0 g
ポリオキシエチレンソルビタン	
モノステアレート	1.7 g
ソルビタンモノステアレート	4.2 g
防腐剤	適量

前記の各成分を混合し、約75℃で加熱して溶解させて油相部を調製した。

プロピレングリコール	2.0 g
ホウ砂	0.7 g
精製水	残余

これらの各成分からなる混合液に、約75℃に加熱した前記の油相部を攪拌しながら加え、冷却し、55℃で香料を適量加え、45℃まで攪拌をつづけ、放置してクリームを得た。

実施例19：クリーム

ミツロウ	10.0 g
パラフィンワックス	6.0 g

実施例20：クリーム

ミツロウ	10.0 g
パラフィンワックス	6.0 g
ラノリン	3.0 g
イソプロピルミリステート	6.0 g
スクワラン	8.0 g
流動パラフィン	25.0 g
シャクヤク抽出物（乾燥物）	0.2 g
ボタン抽出物（乾燥物）	0.1 g
オトギリソウ抽出物（乾燥物）	0.2 g
イオウ	2.0 g
ポリオキシエチレンソルビタン	
モノステアレート	1.7 g
ソルビタンモノステアレート	4.2 g
防腐剤	適量

前記の各成分を混合し、約75℃で加熱して溶解させて油相部を調製した。

プロピレングリコール	2.0 g
ホウ砂	0.7 g
精製水	残余

ラノリン	3.0 g
イソプロピルミリステート	6.0 g
スクワラン	8.0 g
流動パラフィン	25.0 g
キンシバイ抽出物（乾燥物）	0.2 g
ボタンビ抽出物（乾燥物）	0.3 g
イオウ	2.0 g
ポリオキシエチレンソルビタン	
モノステアレート	1.7 g
ソルビタンモノステアレート	4.2 g
防腐剤	適量

前記の各成分を混合し、約75℃で加熱して溶解させて油相部を調製した。

プロピレングリコール	2.0 g
ホウ砂	0.7 g
精製水	残余

これらの各成分からなる混合液に、約75℃に加熱した前記の油相部を攪拌しながら加え、冷却し、55℃で香料を適量加え、45℃まで攪拌をつづけ、放置してクリームを得た。

これらの各成分からなる混合液に、約75℃に加熱した前記油相部を攪拌しながら加え、冷却し、55℃で香料を適量加え、45℃まで攪拌をつづけ、放置してクリームを得た。

実施例21：軟膏

固体パラフィン	10.0 g
ビースワックス	10.0 g
スクワラン	10.0 g
シャクヤク抽出物（乾燥物）	1.0 g
ボタンビ抽出物（乾燥物）	1.0 g
オトギリソウ抽出物（乾燥物）	1.0 g
イオウ	2.0 g
香料	適量
ワセリン	66.5 g

前記の各成分を混合し、混合物を80℃に加熱して溶解させた後、攪拌冷却を行い、軟膏を得た。

実施例22：軟膏

次に臨床例を挙げて本発明の皮膚外用剤の効果をも更に詳細に説明する。実施例で得られた化粧用クリームのニキビ、肌あれに対する効果を次の通

り試験した。尚、対照用として比較例1のクリームを使用した（比較例は生薬抽出物除去品である）。

比較例1：クリーム

ミツロウ	10.0 g
パラフィンワックス	6.0 g
ラノリン	3.0 g
イソプロピルミリステート	6.0 g
スクワラン	8.0 g
流動パラフィン	25.0 g
イオウ	2.0 g
ポリオキシエチレンソルビタン	g
モノステアレート	1.7 g
ソルビタンモノステアレート	4.2 g
防腐剤	適量

前記の各成分を混合し、約75℃で加熱して溶解させて油相部を調製した。

プロピレングリコール	2.0 g
ホウ砂	0.7 g
精製水	残余

これらの各成分からなる混合液に、約75℃に

加熱した前記の油相部を攪拌しながら加え、冷却し、55℃で香料を適量加え、45℃まで攪拌をつづけ、放置してクリームを得た。

（被験者）

各被験者に試験試料を塗布し、使用前後で比較し、下記判定基準にて効果を検定した。被験者は肌荒れのある男子60名および女子40名、ニキビのある男子60名および女子40名で、年齢は15～35才であった。

（テスト方法）

被験者に毎日2回、洗顔後にクリームを少量（約0.2g／200cm²）塗布し、2週間後にその症状改善効果を評価した。

（評価）

各症状の程度を次の4つに区分した。

全 治：全部症状が無くなった。

著 効：著しく効果がある。

有 効：全て軽くなる。

無 効：使用前後で変化無し。

結果を第1表に示す。

第1表

実施 No.	症 状	性 別	全 治 例	著 効 例	有 効 例	無 効 例	全症例中 の有効率
比較 例 1	肌荒れ	男	0	0	1	59	3%
		女	0	0	2	38	
	ニキビ	男	0	0	0	50	0%
		女	0	0	0	50	
16	肌荒れ	男	2	8	22	28	54%
		女	1	7	14	18	
	ニキビ	男	1	9	19	29	50%
		女	1	7	11	21	
17	肌荒れ	男	2	16	23	19	65%
		女	1	11	12	16	
	ニキビ	男	3	16	24	17	70%
		女	1	14	12	13	
18	肌荒れ	男	5	17	21	16	70%
		女	3	11	12	14	
	ニキビ	男	3	18	25	14	77%
		女	2	16	13	9	

第1表（続き）

実施 No.	症 状	性 別	全 治 例	著 効 例	有 効 例	無 効 例	全症例中 の有効率
19	肌荒れ	男	2	14	25	19	64%
		女	1	9	13	17	
	ニキビ	男	1	17	18	24	62%
		女	1	11	14	14	
20	肌荒れ	男	8	13	38	1	99%
		女	1	10	29	0	
	ニキビ	男	11	16	30	3	96%
		女	3	8	28	1	

注）有効率は、有効以上の効果が全症例に対して占める割合である。

第1表の結果から明らかなごとく、本発明の生薬成分含有皮膚外用剤は肌荒れおよびニキビの改善に優れた効果を発揮した。

また、第1表に示したものの以外の実施例の皮膚外用剤についても同様に有効な効果が得られた。

第1頁の続き

⑤Int.Cl.⁵

A 61 K 35/78

識別記号

ADA C

庁内整理番号

8413-4C

- ⑦発明者 ヤン ナンジャン 中華人民共和国, ベイジンシ チヨンウエンチュー ドン
スー クアイユー ナンジェ 32ハオ ベイジン リーヨ
ン
- ⑦発明者 コン スーボー 中華人民共和国, ベイジンシ チヨンネイ ダージェ 96
ハオ ベイジンシ トンレンビンユエン
- ⑦発明者 駒崎 久幸 神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株式会社資生堂研
究所内
- ⑦発明者 川 尻 康 晴 神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株式会社資生堂研
究所内
- ⑦発明者 富田 建一 神奈川県横浜市港北区新羽町1050番地 株式会社資生堂研
究所内